研　究　成　果　情　報

平成 29 年度

ニガウリ節成り性品種の収量向上及び収穫時期の平準化を図る整枝着果法		
［要約］ニガウリ節成り性品種の子づる4本整枝栽培において、子づるの着果数を3果に着果制限することで着果が安定し、増収及び収穫時期の平準化が図られる。		
新潟県農業総合研究所佐渡農業技術センター	連絡先	TEL　0259-63-4102 FAX　0259-63-3972

［背景・ねらい］

ニガウリは佐渡市において、水稲育苗ハウス後利用として生産量が伸びてきている。しかし、栽培方法については未確立な部分が多く、栽培期間における出荷量の増減がみられるなど、出荷が不安定である。そこで、ニガウリの一般的な整枝方法である、子づる4本整枝栽培において、子づるの着果数と収量及び収穫時期の関係について明らかにする。

［内容］

1　親づる（主枝）は7葉で摘心し、太い子づるを4本残して扇型にネットに誘引する。子づるは、10節までは果実及び孫づるを除去し、25 節で摘心する（図1）。

2　子づる 10 節から 25 節の着果数を3果に制限する。その際、連続して着果しないよう摘果する。

3　子づるの着果数を3果に着果制限することで、孫づる以降のつるの発生本数及び着果数が増加する（表1）。また、着果が安定することで収穫時期の平準化が図られ（図2）、収益性が向上する（表2）。

［導入効果］

1　増収することで収益性が向上する。

2　収穫時期の平準化が図られ、出荷が安定する。

［導入対象］

ニガウリ生産者

［留意点］

1　4月中旬は種、5月中旬定植、畦幅 170cm、株間 100cm のハウス栽培での試験である。

2　交配は人工交配で、孫づる以降は着果制限せずに、すべての雌花を交配し着果させた。

3　孫づる以降の整枝は、放任とした。

4　収穫は、果重 250gを目安に実施した。

［具体的データ］

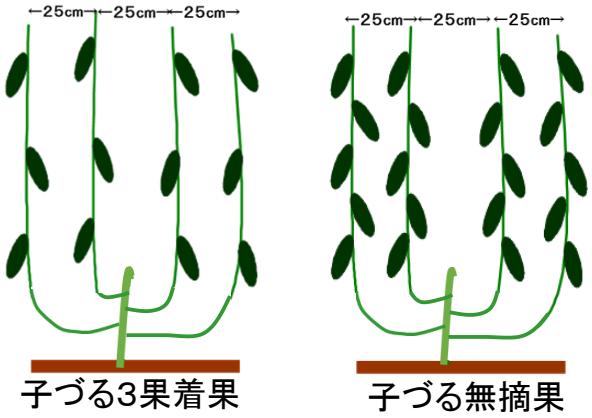

図1　子づる着果までの模式図

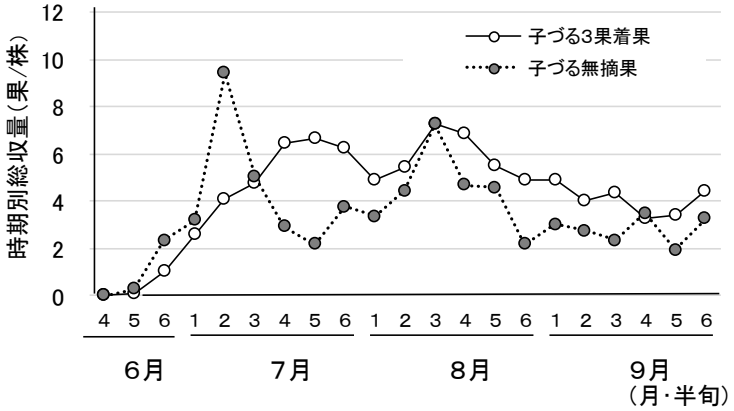

図2　時期別収穫果数
（平成 26～28 年平均）

表1　つる数及び規格別収穫果数

区　＼　項目	つる数 注2 (本/株)	総果数 (果/株)	A品 (果/株)	B品 注3 (果/株)	規格外 注4 (果/株)
子づる3果着果	73	92	64	9	19
子づる無摘果	49	73	54	7	12
有意性 注1	*	*	**	n.s	n.s

注1　**、*はそれぞれ1、5%水準で有意差があることを示す。
注2　孫つる以上のつる数。
注3　曲がり1.5cm以上3cm未満、2/3未満の着色不良。
注4　長さ17cm未満、曲がり3cm以上、2/3以上の着色不良、奇形。

表2　月別粗収益の試算（A品）

区　＼　項目	6月 (円/株)	7月 (円/株)	8月 (円/株)	9月 (円/株)	合計 (円/株)
子づる3果着果	74	1,986	1,458	947	4,465
子づる無摘果	261	1,756	1,138	702	3,858

注　地域市場の月別平均単価（4カ年平均）で試算。

［その他］

研究課題名：佐渡におけるかき及び園芸作物の地域条件に適合した安定生産及び生産性向上技術の確立

予算区分：県単経常

研究期間：平成 26～28 年度

発表論文等：なし